

5 人づくりのための仕組みづくりプロジェクト

政策目標の概要(A)

本県においてどのような人材を育成するかという方向性を定め、多様な主体がつながりを持って戦略的な人づくりを行うことができるよう、連携・協力するためのネットワークを構築し、人づくりのための総合的な仕組みをつくる。また、県民みんなで人づくりを行うという意識を醸成し、県民ぐるみの人づくりを推進する。

主な取組(B)	施策(C)	事業(D)	個別事業(E)										決算額	H25事業結果	事業の評価と改善の方向性(H27年度予算への対応)						
			個別事業名 (予算上の事業または事項)	新規/再掲	担当部局	担当課	個別事業概要	目標・指標				予算額			H25 決算 (千円)	部局評価	財政課評価				
								成果(結果)を示す項目	実績値 (過去4年間)							目標値		H25 当初 (千円)	H26 当初 (千円)	評価の考え方	評価の考え方
									H22 H23 H24 H25	H25 (前年度)	H26 (当年度)	H27 (総合計画 終期)				※評価区分の凡例 1. 廃止・休止・終了 2. 縮小・一部廃止・統合 3. 拡充 4. 継続					
1 群馬県人づくり戦略の策定・推進																					
(1)群馬県人づくり戦略の策定・推進																					
■ 県民ぐるみの人づくりを行うため、群馬県人づくり戦略を策定します。(平成23年度策定済み)																					
			人づくり施策の推進		企画部	企画課	県民ぐるみで人づくりを行う意識を醸成するため、人づくり施策の着実な推進を図る。	県民ぐるみで人づくりを行う意識を醸成するため、人づくり施策の着実な推進を図る。	-	-	-	-	部局予算対応	部局予算対応	-	「群馬県人づくりネットワーク」及びウェブサイトの運営、先進事例の情報収集、「人づくり事例集」の作成・配布を行ったほか、先進2事例を紹介する交流会を3/27に開催した。	引き続き「群馬県人づくりネットワーク」及びウェブサイトを運営し、先行事例の紹介や団体間の交流やマッチング等により取組を充実させる。	4	地域を支える人を育てる取組は、多くの場所で様々な主体により行われることが重要。その連携役を務め、また、取組主体をより多くしていく必要があるため、継続。		
1 群馬県人づくり戦略の策定・推進 小計 部局予算対応																					
2 人づくりを行う多様な主体のネットワークの構築																					
(1)人づくりを行う多様な主体のネットワークの構築																					
■ 家庭、学校、地域、企業、NPOなど人づくりを行う多様な主体の連携・協力体制の強化を図るため、群馬県人づくりネットワーク(仮称)を構築します。																					
			総合計画推進 (人づくり戦略推進体制の構築)		企画部	企画課	人づくりに関する合意形成・気運醸成、また、人づくりを行う主体間の情報共有・連携促進を行うため、県内の人づくりに取り組む団体等による「群馬県人づくりネットワーク」を構築する。	群馬県人づくりネットワークの登録団体数	H22:- H23:- H24:10件 H25:11件	100	100	200	部局予算対応	部局予算対応	-	H25年4月1日から「群馬県人づくりネットワーク」のウェブサイトを公式に稼働し、人づくり施策に関して情報共有・発信できる体制を整えた。	引き続き「群馬県人づくりネットワーク」及びウェブサイトを運営し、先行事例の紹介や団体間の交流やマッチング等により取組を充実させる。	4	地域を支える人を育てる取組は、多くの場所で様々な主体により行われることが重要。その連携役を務め、また、取組主体をより多くしていく必要があるため、継続。		
■ 高校卒業生の就職率向上を目指し、教育界と産業界の連携を強化するなど、ネットワークを活用した人づくりを推進します。																					
			総合計画推進 (群馬県人づくりネットワーク交流会)		企画部	企画課	「群馬県人づくりネットワーク」登録団体のより効果的な連携促進を図るため、ネットワーク登録団体相互のフェイストゥフェイスによる交流会を開催する。	交流会参加団体数	H22:- H23:- H24:3(座談会として開催) H25:23(講演会として開催、計35名が参加)	200	100	200	600	456	54	3/27に交流会を開催し、2つの先進事例の講演及び特別展示を行った。 ①「未来創世塾」(群馬大学) ②「Mキッズサミット」(前橋市中央公民館)	人づくりに取り組む団体間の連携を促進し、人づくり活動をさらに活発化していくためには、ネット上での情報共有に加えて、フェイストゥフェイスでの交流を促進する取組を進める。	4	地域を支える人を育てる取組は、多くの場所で様々な主体により行われることが重要。その連携役を務め、また、取組主体をより多くしていく必要があるため、継続。		
			次代を担う職業人材育成	再掲	教育委員会	高校教育課	地域の企業や農業生産者等と連携して、地域の産業界が必要とする人材を育成する。また、熟練技能者を活用し、工業教育の充実を図る。地元企業・研究機関等から豊かな経験と知識をもつ人材を講師として招へいする。	①教育プログラムの指定校数 ②専門学科における社会人講師の授業時間数 ③熟練技能者活用実施校数	H22:4校 H23:7校 H24:7校 H25:7校	①7校	①7校	①7校	10,030	13,720	8,534	産業界と連携し、教育プログラム指定校7校(農業分野(2校)、工業分野(4校)、商業分野(1校))において、就業体験等を実施した。また、専門学科講師派遣として、産業界から豊かな経験と知識をもつ人材を招へいし、専門高校18校で560時間の実践的な授業を実施した。熟練技能者活用では、配置校4校、巡回校5校で、熟練技能者から指導を受けた。	本事業は、産業界との連携・交流を通じた実践的な学習活動等により、生徒の勤労観・職業観を育成することができ、またこのことが地域雇用のマッチング強化につながると考えられるため、継続。	4	地元産業界から求められる人材を育成するために、継続。未指定校についても、指定校と同じような教育プログラムが実践されるよう、実施方法の見直しが必要。		
			福祉科目の授業を実施している学校において、医師、看護師、訪問介護員等を招へいするとともに、高齢者施設に実習を委託し、福祉教育の充実を図る。				介護福祉士合格者	H22:45名 H23:50名 H24:48名 H25:47名	51名	51名	52名	4,343	3,708	3,708	介護福祉士を養成している伊勢崎興陽高校と吾妻高校の2校において、国家試験合格率100%を達成することができた。	少子高齢化が進む社会において、今後一層、福祉人材の育成に取り組んでいく必要がある。	4	介護人材育成のために必要な事業であるため、継続。			
			次代を担う職業人材育成のための教育設備充実	再掲	教育委員会	管理課	人材育成に支障をきたしている設備を修繕・更新し、産業界が必要とする「実習により確かな技術を身につけた人材」の育成を行う	大型実習設備の更新等(台数)	H22:3 H23:0 H24:3 H25:4	4	2	累計24	50,000	50,000	49,991	勢多農林高等学校等の産業教育設備を更新した。また、渋川工業高等学校等の産業教育設備の修繕を行った。	「地域の産業界が求める人材」の育成を行い、次代を担う職業人材を輩出するため、職業高校の産業教育設備の更新及び修繕をすることは必要不可欠である。	4	職業高校の産業教育設備は、人材育成に必要なものであり、計画的な更新及び修繕が必要であるため、継続。		

【「はばたけ群馬プラン」重点プロジェクト推進シート】 <PJ5>2

主な取組(B)	施策(C)	事業(D)	個別事業(E)										決算額	H25事業結果	事業の評価と改善の方向性(H27年度予算への対応)					
			個別事業名 (予算上の事業または事項)	新規/再掲	担当部局	担当課	個別事業概要	成果(結果)を示す項目	目標・指標						予算額		部局評価	財政課評価		
									実績値 (過去4年間)		目標値				H25 当初 (千円)	H26 当初 (千円)	H25 決算 (千円)	評価 区分	評価の 考え方	評価の 考え方
									H22 H23 H24 H25	H25 (前年度)	H26 (当年度)	H27 (総合計画 終期)								
			夢実現・進路プラン	再掲	教育委員会	高校教育課	高校でのキャリア教育を組織的・体系的に行うため、キャリア教育を担当する教員の情報交換や、希望する高校に対する支援を実施する。	キャリアアドバイザー活用事業実施校	H22: 6校 H23: 10校 H24: 63校 H25: 63校	63校	63校	30校	622	577	410	望ましい勤労観・職業観を育成するため、58校において講師を招き、講演・講話、進路相談を実施した。	4	生徒一人ひとりの進路目標実現に向けて、今後も学校の教育活動全体を通して、組織的・系統的にキャリア教育を推進していく必要がある。	4	生徒の職業観を育成し、適切な進路選択を行う態度を養うために、継続。
			ぐんまトライワーク推進 (高校生長期インターンシップ)	再掲	教育委員会	高校教育課	2週間程度の長期就業体験を実施し、専門分野に対する実践的な知識・技術の体得を図るとともに、望ましい勤労観・職業観を育成する。	専門高校における長期インターンシップ実施学校の割合	H22: 90.5% H23: 90.5% H24: 95.2% H25: 100%	100%	100%	100%	688	688	663	夏季休業中を中心に1,022名の生徒が就業体験に参加し、望ましい勤労観・職業観の育成に繋げることができた。	4	生徒の勤労観・職業観の育成はもとより、受け入れた企業からも生徒の意欲的な姿勢が評価されるなど、成果を上げている。本事業は、本県の産業を支える人材を育成する上で有効な取組であり、地域産業界からの要望もある。参加する生徒も増加しており、今後も継続して実施する必要がある。	4	生徒の勤労観の育成に加え、地元企業への定着にも効果が見込めるため、継続。
			普通科高校等インターンシップ推進	新規/再掲	教育委員会	高校教育課	県立高等学校の普通科の生徒を対象に、学校から離れ企業や大学等の研究機関、行政機関、医療機関等でインターンシップを実施し、生徒の望ましい勤労観や職業観を育成する。	普通科高校等のインターンシップ実施校数	-	40校	40校	-	-	250	-	平成26年度新規事業のため、事業評価対象外				
			社会人講師活用	再掲	教育委員会	高校教育課	普通科、総合学科を置く高校において、多様で特色のある教育課程を編成するため、地元企業等から社会人を講師として招へいする。 スポーツ科・芸術科において、指導内容の専門性を充実させるため、高度な専門知識・技術を有する人材を講師として招へいする。	普通科、総合学科等における社会人講師の授業時間数。	総合学科等 H22: 264H H23: 273H H24: 239H H25: 223H 特別講師 H22: 137H H23: 137H H24: 127H H25: 120H	総合学科等 230h(11校) 特別講師 120h(1校)	総合学科等 230H(11校) 特別講師 120H(1校)	総合学科等 260h(11校) 特別講師 137h(1校)	1,253	1,253	1,181	総合学科等講師派遣事業については11校において、地元企業、研究機関等から、豊かな経験と知識・技術を持つ人材を講師として招へいした。 特別学科講師派遣事業については1校において、高度な専門的知識・技術を有する人材を講師として招へいした。	4	各高校において、社会のニーズに対応した教育を展開したり、生徒の学習意欲を喚起したりするためには、多様な豊かな経験を持つ社会人や、高度な専門的知識・技能を有する人材を活用することが必要不可欠であり、今後も継続して実施する必要がある。	4	地域の外部人材等を活用した指導内容の充実を図るため、継続。
			群馬県産業教育フェア【高校】 特別支援学校教育充実(群馬県産業教育フェア)【特・支】	再掲	教育委員会	高校教育課 特別支援教育室	職業教育に関する学科等及び特別支援学校高等部に学ぶ生徒の学習成果等の発表の場を提供し、生徒の自発性や創造性を高め、新時代に対応した職業教育を推進するとともに、小中学生等の適切な進路学習の機会とする。	参観者数	H22: 5,315名 H23: 5,990名 H24: 4,200名 H25: 5,771名	5,500名	5,500名	5,500名	【高校】 3,702 【特支】 880	【高校】 3,676 【特支】 836	【高校】 3,636 【特支】 880	【高校】 本フェアでの研究発表、作品の説明、体験学習の指導等で、生徒が来場者と自主的・意欲的にかかわることを通して、生き生きと活躍する場面を得ることができた。 また、地域や産業界と連携した職業教育を進める上でも、本県の職業教育の成果を理解いただく機会として、大きな効果を得ることができた。 【特支】 特別支援学校高等部で学ぶ生徒に、学習成果の発表の場を与え、自発性、創造性を高めることができた。また、小中学生等が特別支援教育を理解し、障害のある生徒と接する機会を提供するなど、貴重な経験の機会となっている。	4	【高校】 高校生に、職業教育に関する学習成果等の発表の場を提供し、生徒の自発性や創造性を高めるとともに、小・中学生等の適切な進路学習の機会として役立てることができた。 職業教育への理解と協力を得るためにも事業は継続して行くが、会場や発表形式等を再検討したい。 【特支】 特別支援学校高等部で学ぶ生徒に、学習成果の発表の場を与え、自発性、創造性を高めることができた。また、小中学生等が特別支援教育を理解し、障害のある生徒と接する機会を提供するなど、貴重な経験の機会となっている。	4	一般県民に対して、職業教育などの学習成果を発表することで、生徒の意欲向上にも貢献しているため、継続。
			特別支援学校職業自立推進	再掲	教育委員会	特別支援教育室	① 就労支援員4人を県立知的特別支援学校に配置し、就業体験や新たな職種の開拓、企業に対する理解促進を図る。 ② 県立知的特別支援学校の高等部生徒を対象に介護現場の業務に関する体験型研修会を新規に計画し、社会・介護サービス等に関する職業への就労の拡大を図る。 ③ 「1年生進路ガイダンス」「企業採用担当者学校見学会」「卒業生定着支援」の3つを新たに行い生徒の職業自立を一層進める。	① 就業体験が受入可能な企業の件数 ② 体験型研修会参加生徒数	①H22: 165 H23: 215 H24: 228 H25: 278 ②H25: 72	①240 ② 20	①290 ②80	①300 ② 90	10,878	11,052	8,861	就労支援員4人を県立知的特別支援学校8校に配置し、就業体験や新たな職種の開拓、企業に対する高等部生徒の就労について、理解促進を行うことができた。 3地域(中北毛、西毛、東毛)×2日の体験型研修会を夏季と冬季の2回開催することができ、介護について生徒の興味関心を高めたり、理解を進めることができた。	3	特別支援学校高等部卒業生の一般就労を促進するために必要な事業であり、今後、教員等が企業を訪問して、卒業生の就労定着を支援したり、一般就労率を向上させるために、就労支援員の配置を増員するなど、事業の拡充が必要。	4	一般就労を促進するために必要な事業であり、継続。 一般就労率向上にあたっては、労働政策課等の関係課や関係機関とも連携し、より効果的な事業となるよう、内容を検討する必要がある。
			特色ある教育活動推進 「ぐんまスクール・オブ・ザ・イヤー」	再掲	教育委員会	義務教育課	学校の伝統や実態、地域の特色に応じた関わり合いなど、特色ある教育活動に取り組んでいる優れた小中学校を表彰し、広く県民に紹介する。	各学校における特色ある教育活動の一層の推進	H23年度に初の表彰の実施 H24年度に2回目の表彰の実施 H25年度に3回目の表彰の実施	3年目の表彰の実施	4年目の表彰の実施	各学校でそれぞれ特色ある教育が実践される。	285	280	255	小学校59校、中学校19校の応募校について、書類審査、プレゼンテーション審査を行い、小中学校別に最優秀校1校、優秀校2校、審査員特別賞を複数校選考し、表彰を行うとともに、全応募校の取組について、Webページで紹介した。	4	特色ある教育活動への取組が評価され、表彰されるということは、学校にとって大きな励みになる。 また、受賞校の取組を県教育委員会のWebページや広報誌等に掲載したり、テレビ番組で紹介したりすることで、他校等への波及効果も期待できる。	4	児童生徒が主体的に取り組む特色ある教育の充実のために、継続。

【「はばたけ群馬プラン」重点プロジェクト推進シート】 <PJ5>3

主な取組(B)	施策(C)	事業(D)	個別事業(E)										決算額	事業の評価と改善の方向性(H27年度予算への対応)							
			個別事業名 (予算上の事業または事項)	新規/再掲	担当部局	担当課	個別事業概要	目標・指標				予算額		H25 決算 (千円)	H25事業結果	部局評価		財政課評価			
								成果(結果)を示す項目	実績値 (過去4年間)		目標値					H25 当初 (千円)	H26 当初 (千円)	評価 区分	評価の考え方	評価 区分	評価の考え方
									H22 H23 H24 H25	H25 (前年度)	H26 (当年度)	H27 (総合計画 終期)									
			道徳教育総合支援事業	再掲	教育委員会	義務教育課	道徳教育に関する学校や地域の特色を生かした多様な取組を支援し、道徳教育の一層の充実を図る。	道徳郷土資料「ぐんまの道徳」を、H26年度末までに作成し、道徳の時間等における活用を促すことにより、道徳教育の一層の充実を図る。	○H23:道徳郷土資料集作成に向けた構想づくりを行う。 H24:道徳郷土資料集作成に向けた準備を引き続き行う。基礎・基本習得状況調査を2月に実施 H25:道徳郷土資料作成委員会を組織し、読み物資料及び指導資料(案)を作成する。 ○「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童生徒の割合 H22:小6 82% 中3 75.5% H23:震災のため調査なし H24:小6 86% 中3 80% H25:小6 84.5% 中3 82.%	○道徳郷土資料作成委員会を組織し、読み物資料及び指導資料(案)を作成する。 ○郷土にかかわる道徳の読み物資料及び指導資料を作成・配布する。 ○作成した道徳郷土資料集を活用して、道徳教育の一層の充実を図る。	3,642	9,717	2,443	2市1村1高校における道徳教育に関する学校や地域の特色を生かした多様な取組を支援した。 道徳郷土資料作成委員会を4回(5/16、8/19、10/22、1/15)実施し、読み物資料及び指導資料の内容の検討を行った。	4	いじめの未然防止や教科化を踏まえ、引き続き、道徳教育に関わる教員の指導力の向上を図る必要があるため、今後も継続して実施する。	4	学校や地域の特色を生かした道徳教育を推進するため、継続。			
			ぐんまグローバル塾	再掲	企画部	国際戦略課	県民及び県内の企業・団体・行政を対象に、国際的な視点で活躍し、地域への貢献が期待できるグローバル人材を育成するため、講演会等を実施する。また、群馬県の学生等を対象とした海外インターンシップを実施する。	①講演会等参加者数 H22:60人 H23:524人 H24:709人 H25:640人 ②インターンシップ参加者数 H24:6人 H25:6人	①315人 ② 6人	①315人 ② 6人	①315人 ② 6人	1,636	971	683	海外事情に通じた専門家等による講演会を計10回開催し、県内企業・団体等から延べ640名が参加し、海外展開に関わる人材育成を図った。また、県内大学生等を米国の協力企業へインターンシップとして派遣し、グローバル人材の育成を図った。	4	県の持つ海外ネットワークを活用し、海外展開を図る企業関係者や次代を担う若者等のグローバル人材育成を効果的に図った。 H27は、国際戦略の展開により広がるネットワークを活用し、継続して実施していく。	4	海外に取り組みとする事業者を支援し、行政としても、ネットワークの構築と民間のノウハウを吸収できる効果的な事業であり、継続。 海外インターンシップ事業については、過去参加者のフォローアップを行うことが必要。		
			新人看護職員研修事業	再掲	健康福祉部	医務課	病院等に対する免許取得後の新人研修補助、研修責任者研修、実地指導者研修などを行う。	新人看護職員等数	H22: 573人 H23: 580人 H24: 614人 H25: 633人	630人	652人	652人	40,153	33,447	30,297	病院等に対する免許取得後の新人研修補助、研修責任者研修、実地指導者研修などを行い、看護の質の向上及び看護職員の離職防止を図る環境の整備に努めた。	4	看護職員の離職防止及び資質向上のための研修であり、今後も研修の充実を目指して継続実施する。	4	看護職員の質の向上や新人看護師の離職を防止し定着を図るために必要な経費であり継続。	
■ 県民ぐるみで人づくりを行う意識の醸成を図ります。																					
			総合計画推進 (人づくり戦略推進体制の構築)	再掲	企画部	企画課	人づくりに関する合意形成・気運醸成、また、人づくりを行う主体間の情報共有・連携促進を行うため、県内の人づくりに取り組む団体等による「群馬県人づくりネットワーク」を構築する。	群馬県人づくりネットワークの登録団体数	H22:- H23:- H24:10件 H25:11件	100	100	200	部局予算対応	部局予算対応	-	H25年4月1日から「群馬県人づくりネットワーク」のウェブサイトを公式に稼働し、人づくり施策に関して情報共有・発信できる体制を整えた。	4	引き続き「群馬県人づくりネットワーク」及びウェブサイトを運営し、先行事例の紹介や団体間の交流やマッチング等により取組を充実させる。	4	地域を支える人を育てる取組は、多くの場所で様々な主体により行われることが重要。 その連携を促し、また、取組主体をより多くしていく必要があるため、継続。	
			総合計画推進 (群馬県人づくりネットワーク交流会)	再掲	企画部	企画課	「群馬県人づくりネットワーク」登録団体のより効果的な連携促進を図るため、ネットワーク登録団体相互のフェイストゥフェイスによる交流会を開催する。	交流会参加団体数	H22:- H23:- H24:3(座談会として開催) H25:23(講演会として開催、計35名が参加)	100	100	200	600	456	54	3/27に交流会を開催し、2つの先進事例の講演及び特別展示を行った。 ①「未来創世塾」(群馬大学) ②「Mキッズサミット」(前橋市中央公民館)	4	人づくりに取り組む団体間の連携を促進し、人づくり活動をさらに活発化していくためには、ネット上での情報共有に加えて、フェイストゥフェイスでの交流を促進する取組を進める。	4	地域を支える人を育てる取組は、多くの場所で様々な主体により行われることが重要。 その連携を促し、また、取組主体をより多くしていく必要があるため、継続。	
2 人づくりを行う多様な主体のネットワークの構築 小計 127,379																					
3 多様な担い手の支援・育成																					
(1)多様な担い手の支援・育成																					
■ 地域課題の解決に向けて取り組むNPOやボランティアなどの市民活動に関する相談や情報提供を行うとともに、多くの県民がNPOやボランティア活動に参加しやすい環境を整備します。																					
			市民活動支援		生活文化スポーツ部	NPO・多文化共生推進課	・NPO・ボランティアに関する相談や情報提供、団体の基盤強化のためのセミナーなどを行い、市民活動を支援する。 ・NPOへの融資や補助等を行い、市民活動の担い手であるNPOを資金面から支援する。	①NPO法人認証数 ②NPO・ボランティアサロンぐんま相談等件数	①NPO法人認証数 H22 691法人 H23 722法人 H24 773法人 H25 803法人 ②NPO・ボランティアサロンぐんま相談等件数 H22 1,665件 H23 1,497件 H24 1,441件 H25 1,452件 ※H25より、日曜休館。	①790法人 ②1,600件	①840法人 ②1,600件	①940法人 ②1,600件	81,853	74,264	81,476	NPO法人の設立認証、運営相談等を実施するとともに、認定NPO法人制度の運用に努めた。 NPO法人を資金面から支援するための制度融資を実施した。 NPO・ボランティアサロンぐんまを運営し、NPOやボランティア活動に関する相談や情報提供、セミナーの開催等を実施し、市民活動の支援を図った。	4	NPO法人の認証に加え、認定NPO法人制度の実施のため、業務量は増加傾向にあるが、適切な指導監督により、今後も適正に制度を運用していく。 また、NPO・ボランティアサロン運営については、市町の市民活動支援センターの効果的な支援など、広域的・専門的な支援を行っていく。	4	NPO法人の設立認証等の事務を始め、市民活動を促進していくため、継続。	

【「はばたけ群馬プラン」重点プロジェクト推進シート】 <PJ5>4

主な取組(B)	施策(C)	事業(D)	個別事業(E)										決算額	H25事業結果	事業の評価と改善の方向性(H27年度予算への対応)					
			個別事業名 (予算上の事業または事項)	新規/再掲	担当部局	担当課	個別事業概要	成果(結果)を示す項目	目標・指標						予算額		部局評価	財政課評価		
									実績値 (過去4年間)		目標値				H25 当初 (千円)	H26 当初 (千円)	H25 決算 (千円)	評価 区分	評価の 考え方	
									H22 H23 H24 H25	H25 (前年度)	H26 (当年度)	H27 (総合計画 終期)								
			文化づくり支援事業	再掲	生活文化スポーツ部	文化振興課	群馬県文化振興指針の重点施策を、長期的な展望をもって、総合的かつ効果的に推進するため、群馬県の文化力向上に資する事業に対して財政的・人的支援を行う。	支援件数	H25 21件	34件	34件	100件(3カ年)	11,200	10,972	7,496	「群馬の文化」の形成につながる地域での多様で創造性豊かな文化活動を支援した。支援件数21件	4	文化振興指針の重点施策である「文化力向上」「次世代の育成」「文化資産の発掘活用」の3つを、総合的かつ効果的に推進する文化活動を支援することができた。今後も、市町村や各種団体が広く活用できる制度となるよう周知を図る。	4	県内で行われる多様で創造性豊かな文化活動を支援するため、継続。
3 多様な担い手の支援・育成 小計												85,236								

※評価区分の凡例
 1. 廃止・休止・終了 2. 縮小・一部廃止・統合 3. 拡充 4. 継続